

# 佑啓

ゆうけい

発行者

社会福祉法人 佑啓会

理事長 里見 吉英

〒290-0265

千葉県市原市今富 1110-1

TEL 0436-36-7611

FAX 0436-36-7612

編集者 広報委員会

## 運命、縁、魔法の言葉に支えられ

小原 正律

今、五月下旬、朝はまだ肌寒い。日中はさわやかな日差し、時には夏を思わせる陽気が入り混じっている。新施設、「ふる里学舎八千代」がオープンし、早くも二ヶ月が過ぎようとしている。八千代と言え、市原に比べ都会と思われ方も多いと思う。実際、中心部は主要道路である国道一六号線と成田街道が交差し、京成本線、東葉高速鉄道が通るにぎやかな街である。しかし少し中心部を外れると自然が多く田園風景が広がっている。この季節、自宅のある成田から印旛沼周辺を通る通勤路では、ハクビシン、キジ、時にはイノシシが道を横切る。八千代がどんな街か想像いただけただろうか。

このように冷静に季節を感じ、八千代の状況を説明できるのはこの原稿を依頼されたからである。久しぶりの落ち着いた休日、コーヒを片手に自宅マンションのテラスに出て空を見上げ、これまでの事を振り返っている。

機関紙 佑 啓

新施設完成引き渡しは、三月三〇日。三日後はオープンのため、週末には全職員一丸となり引越作業を進めた。四月二日、月曜日は新規利用者一名と旧福祉作業所の利用者を合わせて四十四名が通所してきている。



新設されたふる里学舎八千代

しかし引越はすべて済んではおらず、物のありかさえわからない。「あれはどこ？無いよ！」こんなやり取りがあちこちから聞こえてくる。利用者さんも環境が変わり動きが理解できず、不安定になる方も多い。そんな体制が整わない中、現場職員は冷静に支援にあたってくれた。本当に感謝である。今の私のように空を見上げる余裕もなかったであろう。

これまでたくさんの方の事業を立ち上げている佑啓会の先輩職員は、この苦労をわかっている。会うたびに「今は大変なのはしょうがない、でも何とかできるよ」と声をかけてくれる。改めて現場職員だけでなく、法人全体で支えてくれたことを感じる。

さて、私自身のことも含め、昔を振り返ってみよう。はじめに恥ずかしいながらも何の変哲もない私の生い立ちから。昭和四十五年川崎市で男四人兄弟の末子として生まれる。間もなく千葉県勝浦市へ越し、幼少時代を過ごす。余談だが一卵性双生児で小さい頃はよく似ていて鏡に映った自分を兄と間違え声をかけてしまうほどであった。自分で言うのもなんだが、性格はまじめでおとなしく運動が得意な少年であった。中学から始めたソフテニスがその後の学生生活の流れを作るきっかけとなる。それなりの成績を収め、高校、その後某体育大学には推薦で入学し、受験の苦しさは味わっていない。学生時代は先輩からよく可愛がってもらった。なぜ？それは他の同級生よりお酒が飲めたからである。どこか今の状況とよく似ている。酒が飲める、好きというものはある意味特技であり、強みであることを感じる。それはさておき、その頃は将来体育教師としてソフテニスの指導者になることを目指し、大学二年までは教職単位を取得していた。しかし大人になりつつある自分が人様の前で偉そうに話すなんてできない、先生と呼ばれることも抵抗があり教員希望をやめた。そこから将来の仕事に対して迷走する。スポーツクラブのインストラクター、ソフトテニスの実業団なども考えていた。

そんな私がなぜ今福祉の仕事をしているのか。それは方向が定まらないままの就職活動の中で、「人のためになる仕事」というのが頭の片隅にあった。今考えればどんな仕事でも人のためになるものだが、単純な私はそこから福祉関係の求人を見るようになる。たまたまその時親が住んでいた八千代市で福祉作業所を見つづけた。幕

平成五年のことである。偶然？うふる里学舎オープンと同じ年である。勤め始めると、昔の施設では利用者さんも親御さんも職員のことを先生と呼ぶ人が多い、私はそんな人間じゃない。そんな思いを持ちながら時代は流れ、職員の呼び名も「さん付け」に代わる。そのまもなく二十二年間八千代市福祉作業所に勤務していた。

旧八千代市福祉作業所は公設民営、指定管理で八千代市手をつなぐ親の会が運営をしていた。三年に一度公募により運営業者が選定される。そして今から三年半ほど前、運営は佑啓会へ。「この先どうなるのだろう」他に事業をしていない親の会では職員を雇う場所もない。全員クビ？・・・お先真っ暗である。



そこへ里見理事長から救いの声「佑啓会の理念に賛同できる人は面倒を見るよ」と。そして市原で説明会が行われることとなった。当日、都合により数名が参加できないという状況、そこで厳しい一言が「雇用を希望しているのは今日ここに来てくれる人だけですね」甘かった！岩崎施設長も慌てている。よく考えれば当然である。人生を分けるこの場面でもどんな都合があろうとも参加させるべきであった。今まで公設民営でやってきた中で知らず知らず染み付いてしまった甘さである。しまった！

何とかもう一度説明会、面接をしてもらえることになり、ホッと胸をなでおろした。感謝である。無事に希望者全員が継続雇用してもらえることとなった。このことは今も宴会の席で理事長が笑いながら話す、最初に厳しさを教えてくれた出来事である。

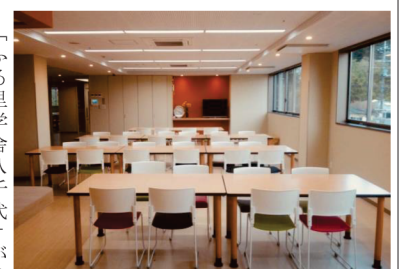
平成二十七年三月末、親の会の職員としては最後となるため、幕

張のホテルにて職員親睦とここで継続雇用を希望しない職員の送別会を兼ねて宴会をすることになった。当日マイクロスパスでホテルに向かう道中、佑啓会の運営へ移行するために連絡を取り合っていた飯田次長（現部長）から電話が入る。「今日一緒だね」、なんと同じ日に同じ場所、佑啓会が納会をしていることが発覚、偶然？何かの縁？を感じたのも言うまでもない。そして四〇〇名を超える佑啓会職員の前で挨拶することになった。小さなNPO法人の職員が県内最大級の社会福祉法人の一員となるんだという緊張感を強く感じたことを今も強く覚えている。見えない何かに導かれるように佑啓会に・・・



大きな窓とテラスのあるリビング

里見理事長は今までの経験から公立施設の職員はすぐに辞めてしまおうと思うって言う。しかしそこは予想を裏切り今でもほぼ全員が勤務している。そこには私たち職員が仕事で壁にぶつかり、行き詰った時に頭に浮かぶ魔法の言葉がある。それは理事長がいつも話している「自分の器の中でサボらず精一杯やればいい」「自分らしくやればいい」という言葉だ。おそらく佑啓会全職員がこの言葉に救われてきたことと思う。そして何の変哲もない人生を歩んで、大きな取り柄もない私が新施設の施設長に任命された。



明るくモダンな雰囲気のレストラン

実施事業は生活介護十八名、就労継続支援B型二十二名、単独型短期入所六名からなる。地域からの期待も大きい。開所から二ヶ月この立派な建物により雰囲気を感じ込み中身を充実させていきたい。そんな思いを抱きながら日々奔走している。

これまでのいくつもの出会い、縁、偶然？が重なり運命を感じる。たくさんの方、そして魔法の言葉に支えられ、今の自分や施設が存在する。

改めて自分の器の中で自分らしく地味に地道にやって行こう！感謝の気持ちを忘れず、少しずつ恩返しをしていきたい。（ふる里学舎八千代 施設長）



# はじめての 日帰り旅行

梶野 保彦



も普段、賑やかな子供たち全員が静かに座って話を聞いている姿に一番感心しました。当日が近づくに連れ、準備は着々と進みます。子供たちの当日の服装はやっぱりデイズニーキャラクターでなきゃと準備する生活職員。旅行前日にはポップコーンを入れるキャラクタールのバケツが事務所にたくさん並びました。大人も意気込みが違います。



今年の三月、里見理事長から千倉の児童達へ思いがけないプレゼントが。「みんなデイズニーランドに行つて思いっきり遊んでおいで！」千倉の子には普通の家庭の様に生活してもらいたい。いや、普通以上の事をさせてあげようというありがたいお気持ちからの言葉でした。開所以来初めての日帰り旅行となり、しかも場所は夢の国、デイズニーランド。早速、日程を運動会の振替休日と決め、計画を立てました。



様々な事情を抱え入所してきた彼ら。全員、小学生以上の男児ですが、中にはデイズニーランドに行った事がない、行ったけど昔の事だから忘れちゃったという子もいました。

そこで、担当職員を中心に事前学習です。デイズニーランドに詳しい担当職員がパンフレットと映像を用いて、楽しみ方や豆知識を教えてくださいました。ほとんど知識のない私も皆と一緒に着席し、話を聞きます。デイズニーランドってすごいなあ。この職員、そんな事まで知っているのかあ。と感心ばかり。それより

いよいよ旅行当日。千葉県の最南端に位置するふる里学舎千倉から東京デイズニーランドまでは人気アトラクションの待ち時間並みの移動時間を要しますので、出発は朝七時です。皆、起きられるかなと心配していましたが、しっかり全員が時間前に起床し、準備万端。普段もこうだと良いのにな・・・と心の声。でも、無事に出発できたので今日は良しとしましょう。



楽しい思い出が沢山できました！

途中、海ほたるで休憩を挟み、午前十時に到着。ここから班行動です。楽しみ方は班それぞれ、乗り物をたくさん乗りたい子、パレード見たい子、夢の国の雰囲気に誘われ、気付けばダースベ

イダーのポップコーン入れを首に掛け歩いていました。



楽しい時間はあっという間。時間いっぱいまで満喫しました。「お土産たくさん買えたよ！」「アトラクションにたくさん乗れた！」など達成感に満ち溢れた表情で帰ってきました。帰りのバスは疲れて寝ちゃうだろうなと思っていたら、ほとんどの子が興奮冷めず、デイズニーランドの余韻に浸っていました。翌日、里見理事長が千倉にお見えになると子供たちは「里見理事長！デイズニーランド楽しかったです！ありがとうございます！」「また、千倉に残ってくださる職員にお土産を買ってくださる優しい児童も。」



今回、初めてのデイズニーランドへの旅行。子供たちの普段見られない表情、また事前の学習から旅行が終るまでの子供たちからは成長を感じる事が出来ました。「来年はデイズニーシーですね！」と早くも来年の話。すっかり学校も日々の生活も頑張っている、また理事長に連れて行ってもらいましょう！夢の国へ！  
(ふる里学舎千倉 支援員)



## ふる里学舎 部活動紹介

### バレーボール部

言わずと知れた佑啓会を代表する部活であり、毎年開催される千葉県知的障害者福祉協議会バレーボール大会の優勝を目指して日々汗を流しています。一昨年度は悲願の初優勝を果たしたものの、昨年度は決勝戦で涙を飲みました。王者奪還を目指して、部員全員気合が入ってます。



千葉県大会決勝にて



応援にも熱が入ります

### 神輿部

佑啓会で最も新しい部活であり、ふる里学舎蔵波の地域にある蔵波八幡神社例大祭で神輿の担ぎ手として参加したのが始まりである。これまで神輿なんて担いだことがない草食系男子が、その雰囲気、汗の血が騒ぎだし、神輿が担げるとあれば自然と集まるようになりました。



蔵波八幡神社例大祭  
かなり大きな御輿です



本郷三河稲荷神社例大祭  
東京ドーム・ラクーアを背に

佑啓会のモットーに「明るく・元気に・爽やかに・・・そして品良く」という言葉がありますが、それとは別に「仕事も遊びも全力に!!」というもあります。そこで、今回はそんな佑啓会の遊びを超えた部活動を紹介致します。

### 野球部

野球好きや元高校球児達が集まって平成18年に創部した野球部は、全国社会福祉軟式野球大会を目指して白球を追いかけています。これまでに2度全国大会にまで駒を進めたものの、前夜祭で飲み過ぎてしまう為か、いずれも初戦敗退…。しかし近年有望な若手が入部し、若手とベテランが融合。これまで以上に力を付けた佑啓会野球部。全国大会常勝を目指し6月30日の関東ブロック予選会に挑みます。



試合開始直前の独特な雰囲気



第2回千葉県大会優勝!!

### その他にも…

部活ではないですが、市原市の高滝湖マラソンや千倉ロードレース、八千代ロードレースなど、事業所の地域で開催されるマラソン大会などに利用者さんと一緒に参加しており、走るのが好きな職員は各地域の大会に参加しています。また、旅行や写真好きが集まる「旅行クラブ」や日本酒以外禁止という「日本酒友の会」など、共感者たちが集まる同好会もあり、そこに入会するには厳選なる審査があるのかなとか…

### 編集後記

いよいよサッカーのワールドカップも始まり、日本代表がどう戦っていくのが注目されます。佑啓会でもバレーに野球に負けられない戦いが始まります。仕事もスポーツも何より大切なのはチームワーク！サッカー日本代表頑張れ！暑い夏と共に佑啓104号をお届けします。

(小石川福祉作業所 支援員 中川 正人)